

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400128		
法人名	医療法人 清友会		
事業所名	グループホーム にこやか 若宮		
所在地	愛知県犬山市裏ノ門45番地		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2393400128-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年4月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・クリニック併設のため医療への体制や緊急時の応援体制は速やかにできており、感染予防対策の徹底にて入居者様の新型コロナウイルス陽性は発生していない。
 ・法人理念「絆～人と人とのつながり～を大切に」に基づいて、地域とのつながりを大切にし入居者様、ご家族様や職員同士の接遇の向上に取り組んでいます。
 ・新型コロナウイルス感染の状況情報により感染予防のため外出・面会を制限しておりますが、写真や動画にて入居者様の様子をお知らせしています。また、入居者様個々が役割を持ち、季節感のある生活をする事で、笑顔が絶えない楽しみある生活ができるように取り組んでいます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの特徴として、同一建物内に入院設備も確保されている医療機関を併設していることで、利用者の健康状態に合わせた柔軟な支援が行われていることである。法人代表者でもある院長をはじめ、日常的に医療機関の看護師との連携を行いながら、利用者がホームで安心して生活することができるような支援体制が整えられている。現状、管理者については2名での体制がつけられていることで、利用者や家族の様々な状況等にも合わせた柔軟な対応が行われており、ホームの運営に反映する取り組みにつなげている。日常の支援についても、職員間で利用者を尊重する支援を行いながら、一人ひとりに合わせた支援内容を検討する取り組みが行われている。また、浴室の改装工事の実施が行われており、身体状態の重い方についても安心して入浴をすることができる体制がつけられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・スタッフルーム、共同生活場に提示を行い、常に意識し理念に基づいた支援を心がけている。	ホームでもある「に・こ・や・か」から考えた理念を職員の支援の基本に考えながら、ホーム内に理念を掲示を行い、職員間で理念の共有につなげている。また、職員で目標を考えながら、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・新型コロナウイルス感染予防のため、現在ボランティアなど外部(地域)の交流を中止している。	地域の方との交流については、困難な状況が続いているが、併設している医療機関が長年にわたり地域で医療活動を行っていることもあり、地域の方には知られた存在でもある。例年は、児童館や保育園との交流の機会がつけられている。	地域の方との交流が困難な状況が続いていることもあるため、併設のデイケア等も通じながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している。	・新型コロナウイルス感染予防のため外部(地域)の行事を中止している。書面での運営推進会議にて意見を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・運営推進会議書類作成・配布が規定通りにできていないことが発生したが、犬山市や民生委員の方、ご家族様にご報告し、意見を頂きサービスの質の向上に努めている。	会議については、書面による実施が続いているが、写真を活用した資料を用意し、ホームの現状を報告する取り組みが行われている。また、例年は、会議に市職員の参加も得られており、情報交換等が行われている。	書面による会議の実施が続いていることもあるため、今後の状況をみながら、会議の再開に向けた取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・運営推進会議資料を配布させて頂き、意見を頂いております。事故報告や不明な点などは、市の窓口、電話などで連携を図っている。	市担当部署との情報交換等については、併設している医療機関等を通じても行われており、ホームの運営に反映している。市内の介護医事業所が集まる連絡会には、ホームからも職員が参加する機会をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指針における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・全職員に抑制しないケアを周知徹底するために指針を掲示、内部での身体拘束研修を年2回実施し、意識の向上に取り組んでいます。また、身体拘束委員会があり、代表者も参加している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、職員間で利用者を見守りながら、一人ひとりに合わせた対応等の確認が行われている。また、運営法人で実施している毎月の安全委員会で身体拘束等に関する現状を確認する取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・常に意識し防止に努めている。また、ミーティングで不適切なケアについて話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・現在、入居者1名 日常生活自立支援事業を利用されているが、熟知している職員と知識が浅い職員との差がある。職員の知知識を深め、必要な制度があれば、積極的に関係者と相談して活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・管理者より「運営事項説明書」「契約書」「個人情報利用同意書」などについて詳しく説明を行い、理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・意見、要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。電話での問い合わせや、ご家族様が洗濯物、オムツを持参された際に必ず声をかけさせて頂き、意見・要望をお聞きし職員間で共有、運営に反映できるように努めている。	家族との交流が困難な状況が続いているが、徐々に面会を再開する等、可能な対応が行われている。家族からの要望等については、併設の医療機関でも対応が可能である。また、年2回のホーム便りの他にも、LINEを活用した随時の情報交換も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・月1回の安全委員会では、代表者と管理者で意見交換を行っている。管理者はミーティング、個人面談などで機会を設け反映させている。	毎月の職員会議や日常的な情報交換を行いながら、管理者が把握した職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、2名の管理者による職員面談も行いながら、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・スタッフ全員が自己目標持ち、年2回自己評価をし管理者と面談を行い定期的に意見を話しやすい、働きやすい環境の提供に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・認知症実践者研修を受ける機会を設けている。代表者は、育成のために研修参加するように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・職員が他の事業所の方と接する事がないため、出来ていない。今後、県や市が主催する研修会に参加する機会に、他事業所職員との交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入居前に見学に来て頂き、不安な事、要望をお伺いしサービスの提供に繋げている。入居後も個々に沿ったコミュニケーションを図り、信頼関係を築くように絶えず努力している。また、入居者同士の会話も傾聴するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・意見、要望をお伺いし話し合っている。ご家族様の思いや現状を把握することによって、信頼関係が築けるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・ご本人、ご家族様の思いを確認し、必要としていることを優先に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・生活を友のする家族という意識を心がけている。尊重し合い、共に過ごし支え合う関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・居室に思い出の物や写真を飾っていただき、家族を意識できるよう努めている。 ・ご家族様との情報共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・新型コロナウイルス感染予防のため外出、面会の制限をさせていただいている。感染状況により場所を考慮し予約面会実施。職員が撮った動画・写真を送っている。	利用者の多くが近隣の方でもあることで、馴染みの方との関係継続の機会にもつながっている。家族との外出の機会もつくられており、身内の方の葬儀に出かけている方もいる。また、利用者の中には、感染症対策をお願いしながら外泊された方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・利用者同士が親しく交流できるように、利用者同士の相性などを見極め職員が間に入って支援に務めることで、それぞれの利用者が出来ることを支え合いながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・ほとんど場合、退所後の関係はなくなってしまいが、ご家族様をお見かけした際は、声を掛けさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ご本人、ご家族様からの細かな情報収集 ・利用者との日々の関りで表情や言動などを把握し、希望や意向を汲みとる努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者や家族の意向等の確認が行われている。また、独自の様式として「施設内での生活状況」の内容をまとめながら、利用者や家族の意向等を日常の支援に反映する取り組みにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・ご本人、ご家族様の細かな情報収集を行い、全職員で把握し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日々のケアでの気づきなどを介護記録し、全職員が現状把握出来るように努めている。 ・月1回のミーティングで利用者の変化・支援について話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・定期的や必要に応じて適時モニタリングを行い、介護計画の作成をしている。	介護計画は6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常の記録についても、日常生活の場面に合わせて記録を残す工夫を行いながらチェックを行い、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・日々の様子を具体的に介護記録に記載し、情報を共有している。また、職員間での申し送りノートにも記載し実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・個々の状況やニーズに応じた支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・支援できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・クリニック併設のため、医師、看護師と連携し利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	入院設備が整えられている医療機関を併設していることで、日常的に医療面での支援が行われており、健康状態等にも合わせて入院も行われている。また、看護師との連携も行われており、協力医でもある院長とも連携しながら医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・体調の変化や緊急時など看護師に相談し、情報を共有している。必要時には迅速に受診が行われるよう連携を図っている。クリニック併設のため夜間も看護師に連絡、相談する体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・管理者は病院関係者との連携を密にとり、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・支援できるように努めている。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われている。併設の医療機関への入院対応の他にも、ホームでの看取り支援も行われており、利用者や家族の意向等に合わせた柔軟な対応が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・ミーティングを活用し、緊急時の対応を実践した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・防災自主検査を毎月1回実施している。 ・避難訓練の実施(年2会)	ホームでは、年2回を基本に避難訓練を実施している他にも、「毎月19日」に防災に関するチェックの日としており、職員間での連携につなげている。建物の1階にある通報装置の確認も行われている。また、医療機関と合わせて備蓄品の確保も行われている。	建物構造上の制約もあり、利用者の避難誘導に困難が予測される。併設の医療機関とも連携しながら、災害に関する継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・入居者の尊厳ある暮らしができるよう、個々に合わせた声かけ、対応をミーティングで話し合い支援している。	基本理念の内容を職員による支援の基本に考えながら、利用者への言葉遣いや対応等を意識する機会につなげている。職員会議や日常的な意見交換等を通じて、管理者から職員への注意喚起の機会もつくり、職員の振り返りや意識向上につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・選択しを提案、表情の観察など利用者個々に応じた言葉かけや対応で自己決定をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・1日の生活リズムは利用者個々のペースを大切にしている。行動の制限や強要せず、気持ちを尊重し、可能な限り個別性の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・着る服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・季節の食材で食事提供やおやつ作りなど、美味しく、楽しく食事ができるように支援しています。また、職員と会話しながらテーブル拭きをして頂いています。	食事については、併設の医療機関の厨房から提供が行われており、ホームのキッチンで盛り付け等が行われている。利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。また、おやつ作り等の機会もつくりながら、利用者もできることに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・メニューは栄養士が作成し、カロリーの管理を行っている。食事形態は個々に合っているものを見極めながら提供している。食事量、排便チェック、月1回の体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・毎食後、声かけ行い口腔ケアをしっかりと行っている。義歯に関しては、夕食後ポリドント洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・利用者個々の排泄パターンを把握するため情報共有を行い、個々にあった声かけや誘導を行っている。	排泄に関する記録方法を改善する等、職員間で情報を共有しやすくする工夫も行いながら、一人ひとりに合わせた支援につなげている。また、トイレの場所を分かりやすく表示する等、利用者の排泄状態の維持、改善につなげる取り組みが行われている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・水分摂取量をチェックし適度な運動を促しているが、便秘症状がみられた場合は看護師や医師に相談し個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	・入浴予定表はあるが、利用者の体調や意思により柔軟に対応している。	入浴については、週2回を基本に随時の対応も行いながら、定期的な入浴につなげている。特殊浴槽の設置が行われており、利用者の身体状態に合わせた支援も行われている。また、浴室の改装工事を実施しており、入浴面での改善が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・空調や室温に配慮を行い、個室で安心して気持ちよく寝られるように支援している。日中の活動を充実させることで、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬剤の用法、用量、注意点理解し服薬支援できるように薬剤情報をファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・新型コロナウイルス感染予防のため外出を制限させて頂いているが、レクリエーション、足浴などで気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・新型コロナウイルス感染予防のため外出を制限させて頂いている。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームの近隣への散歩の機会をつくる等、徐々に外出の機会をつくる取り組みが行われている。なお、歯科受診については、外部の歯科医に出かけていることで、利用者の外出の機会にもつながっている。	今後に向けて、段階的に外出行事を実施する構想がつけられている。今後の状況をみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・利用者は厳禁を所持していない。ご家族様から預り金という名目でお金を預かっており、必要時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・携帯電話をお持ちの利用者もおられ、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・新型コロナウイルス感染予防のため、こまめな消毒、掃除、温度・湿度調節している。共同生活場に季節感を感じられる飾り行い、居心地の良い空間作りを工夫している。	ホーム内はユニットにより、広さや雰囲気が異なっているが、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような配慮を行う等、落ち着いた生活ができるような支援が行われている。また、利用者の作品の掲示を行う等の取り組みも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・共同生活場で気の合った利用者同士でお話されたり、テレビを観て過ごされている。その時々により、環境を整えるは配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居室に写真を飾ったり、使い慣れた物を持って来て頂き居心地よく安心して生活できるように支援している。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた持ち込みが行われており、利用者の中には、好みの物や使い慣れた物等を持ち込んでいる方もいる。また、居室にはベッドが備え付けられているが、利用者の中には日中と夜間で対応を変えている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・利用者の状況に合わせて、トイレの場所を分かり易く大きな字で表示するなど、安全で自立した生活が送れるように動線の確保、環境整備に努めている。		